

キトラ古墳壁画 白虎

2014年春、キトラ古墳の壁画たちが東京国立博物館での公開のために、初めて旅立ちました。その中で、注目の1体を紹介しましょう。

キトラ古墳の白虎。約1,300年前に石室の西壁に描かれたもので、その大きさは全長42cmほど。多くの方が思ったよりも小さいと感じるのではないのでしょうか。しかし、実物の白虎を目にすると躍動的な姿に驚かされます。前脚を突き出し、尻尾を絡ませた後脚は大きく開き、体毛が流れる様は、まさに大地を駆けているようです。また、一般的な白虎の描かれ方と異なり、何故か右を向いている理由等、まだまだ謎が残されています。

飛鳥時代に描かれたとは思えない神秘的な美しさ、そして謎を秘めたキトラ古墳壁画白虎の魅力は語りつくすことはできません。

(前飛鳥資料館 成田 聖)